サン介護新聞

第１８６号
令和７年８月号

保険適用継続求め署名提出OTC類似薬

難病患者の家族は、市販薬と効能やリスクが似た「OTC類似薬」の公的医療保険適用を継続するよう求める署名約8万5千人分を厚労省に提出。政府は保険適用見直しを検討する方針を示しており、適用外となれば1～3割で済んでいる患者の自己負担が大幅に増える。

家族は「病気を抱えて必死に生活する人の暮らしを想像してほしい」と訴えた。難病の大藤龍之助さん(22)がインターネットで署名を呼びかける。魚のうろこのように皮膚が硬くなり、はがれ落ちる「魚鱗癬」を生まれつき抱える。肌の塗り薬ヒルドイド(50グラム入り)を毎月30本以上処方されるなど3種類の薬を使っている。適用外となれば、月2千～3千円の医療費が薬代だけで9万円を超える見込み。署名を提出した母T子さんは「薬は息子の日常生活に欠かせず、不安しかない」と話した。署名には、アトピー性皮膚炎やぜんそく、腎不全、がんなどの患者も応じた。日本医師会などは受診控えが広がり、健康被害が生じる恐れがあると懸念している。

「マイ・iPS細胞」提供に意欲

京都大iPS細胞研究財団は、自分の血液から人工多能性幹細胞(iPS細胞)を低価格で作り、再生医療への利用を目指す施設「Yanai my iPS製作所」の開所に伴う記者会見を開き、5月末に臨床研究用の細胞を製造する施設として国の許可を受け本格稼働する。施設は大阪市北区の複合施設「中之島クロス」内にあり、「ユニクロ」を展開するファーストリテイリングの柳井正会長兼社長からの寄付を基に設置。会見には、柳井氏と山中伸弥・京大教授が登壇。山中教授は「これからが本番。(将来的に)症例数を重ねて国の承認を得ていく必要がある」と説明する。

今月の１枚

「タマスダレ」

電子処方箋2030年までに導入

今年3月までの全国導入を目指していた電子処方箋に関し、厚労省は、患者の医療情報を共有する電子カルテと一体的な導入を進める方針を明らかにし、目標時期は遅くとも2030年としている。医療機関での導入が低調なため目標を見直した。厚労省によると、電子処方箋の導入率は6月下旬時点で33.0%。施設別では病院13.4%、医科診療所19.6%、歯科診療所4.7%、薬局82.5%。電子カルテを利用している医療機関は電子処方箋の導入率が高いとする調査結果などを踏まえ、一体的な導入を促進する。

保険証期限切れでも10割負担求めず

厚労省は、有効期限の切れた健康保険証だけを持参して医療機関で受診した場合も、保険資格を確認できれば10割負担を求めないと明らかにした。マイナ保険証への移行に伴い、すでに期限の更新ができなくなっており、窓口の混乱回避が狙い。来年3月までの暫定措置としている。日本医師会などに周知した。

訪問介護事業所107町村でゼロ

ヘルパーが高齢者宅を訪れて身の回りの世話をする訪問介護サービスを提供する事業所がゼロの自治体が、2024年末時点で32都道府県の107町村に上ることが分かった。人口減少や高齢化が進む中山間地や離島の自治体が目立った。物価高などに伴う経営難やヘルパー不足が影響したとみられる。団塊世代が75歳以上となり、介護需要が高まる中、過疎地でのサービス提供の脆弱さが浮き彫りとなる。利用者が必要なサービスを受けられない状況を避けるためにも、事業所の広域連携や経営の効率化を進めることが有効との指摘があり、行政による支援の強化が求められる。人手を確保するためヘルパーの賃上げなど待遇改善も重要となる。

厚労省が公表している事業所の全国一覧に基づき集計。訪問介護事業所がゼロの自治体は22年末は93町村、23年末は97町村で増加傾向にある。24年末の107町村を都道府県別で見ると、北海道の14町村が最も多く、長野10町村、沖縄10町村、福島8町村、高知8町村が続いた。

訪問看護、カスハラ受けた

訪問看護中に患者らから受けたカスタマーハラスメント(カスハラ)の有無などについて業界団体が訪問看護ステーションなどを調査した結果、回答を寄せた2628事業所のうち6割超が「ある」と答えたことが分かる。威圧的な言動によるハラスメントが多かったが、全体の17.2%(452事業所)は実際に患者らから暴力を受けたと回答。専門家は「被害が潜在化している可能性があり、氷山の一角ではないか」と対策の必要性を訴えている。大阪市西成区で4月、訪問看護中の20代女性が患者に切り付けられた事件があったことを受け、「日本訪問看護財団」(東京)などが調査を実施。4月中旬に質問を送り、2628事業所から回答を得、64.2%に当たる1687事業所が「職員から、過去に患者やその家族からカスハラを受けたとの報告があった」とする。「なし」は941事業所。具体的な内容を複数回答で尋ねると、怒鳴るなどの「威圧的な言動」が最多の1439事業所だった。

サンメディカルの取り組み紹介！

当社では、訪問時の透明性を図る目的でスマートフォンを使用し、訪問時間・場所の管理をしています。施術者は患者様の目の前で「施術開始」と「施術終了」の操作を行っております。

求人のお知らせ

当社では新しい仲間を募集しています。
詳しくはQRコードをチェック！

真夏の自転車走行に備える！～暑さ・日差し対策完全ガイド～

熱中症・紫外線を防ぎながら、安全＆快適なライドを

真夏の自転車は危険がいっぱい

◇気温35℃を超える炎天下では体温調節が困難に
◇直射日光で肌ダメージ・熱中症のリスク増大
◇長時間走行で水分・塩分が急速に失われる
◇「対策なし」での走行は非常に危険！
　→ だからこそ、事前の準備と装備が重要です

ウェア・装備編

◎冷感ウェアや吸汗速乾素材を着用
◎ツバ広の通気性キャップ＋ヘルメットインナーキャップ
◎UVカットサングラスで目を保護　＊薄色レンズがおススメ！
◎通気性のあるグローブで手の火傷防止
◎アームカバー・レッグカバーで日焼け防止＆冷却効果

対策①：体温調節・水分補給

・こまめな水分＆電解質補給（15～20分ごと）
・保冷ボトルで冷たいドリンクを携帯
・手のひら冷却法で身体全体の温度をさげる
・首元に冷感タオル or 保冷剤入りバンダナを巻く
・走行前後は木陰やエアコン環境で身体を冷却

対策②：時間・ルートの工夫

・ルートは木陰や川沿いなど
　涼しいエリアを選ぶ
・休憩ポイント（コンビニ・自販機）を
　事前確認

夏ライドの心得

✓ 準備8割、対策が命を守る！
✓ 水分・塩分・遮熱の3点セットを忘れずに
✓ 無理は禁物！異変を感じたらすぐ休憩！

しっかり対策して、夏の自転車を安全・快適に！

株式会社サンメディカル
SUNMEDICAL GROUP
神奈川県厚木市中町2-1-1　KSビル3F

（編集・発行）
サン介護マッサージ営業部

（コールセンター）
046-401-1580

営業所　秦野・平塚・厚木・相模原・藤沢・横浜・川崎・大和横浜・横浜南・沖縄